

If you can dream it, you can do it

令和8年6月9日

合同体育祭の概要を紹介

令和8年6月5日4校（富士宮東、富岳館、富士特別支援学校富士宮分校、そして富士宮北）による合同体育祭を実施した。前々日の3日には台風6号が県内を通過し、休校にせざるを得ない状況となり、天候やグランド環境、生徒の様子など心配もあったが、**無事に開催できたことは本当によかった**。これまでに準備してきた多くの先生たちの思いが、天にも届いたかのようであった。種目の概要を紹介しておきたいと思う。これら種目を各校の体育科の先生たちが教科体育の目標である身体作りも兼ねながら、創意工夫し、練習し、今日を迎えている。

No0:開会式内で応援合戦「Viva」

No1:宮東リズムトレーニング…富士宮東高で考案されたリズム体操。当日の見本は富士宮東高校生

No2:玉入れ…4校合同で各校150名参加。学年対抗で行う交流種目

No3:tail impossible…男女400m走を3本、1本走るごとに10人が失格となる。富士宮北高の実施種目

No4:ウォータークラッシュ…各クラス1名。水の入ったバケツを頭上に持ち上げ続ける耐久種目。富岳館高の実施種目

No5:借り物競争…4校合同生徒会企画、他校からの借り物で競争

No6:大玉台風…大玉転がしと4人で竹棒を持って走る2つの種目を合同化。学校対抗の新種目

No7:学年別リレー…各校学年別、学校対抗で実施

No8:宮踊り…富士宮市制50周年で作られた創作ダンス。富士宮市で毎年8月に「宮踊り」が開催。全員で!

No9:富士宮分校集団演技…毎年体育祭で実施される分校生の旗を使った演舞。他校を巻き込んで実施

No10:100m・決勝…男女各校6名。各校で予選を実施し、突破した生徒の代表者による100m徒競走

No11:みんなでジャンプ…長縄を4分間で跳んだ最多連続回数を競う。学年別に学校対抗で実施

No12:綱引き…学校対抗綱引き

No13:学校別対抗リレー…各学年6名ずつ。女子100m、200m。男子200m、400mを学年別学校別リレー

No14:閉会式内で生徒会企画「メキシカンウェーブ」ドローンで撮影

会場内では、12台のキッチンカーが体育祭を盛り上げ、応援席では、各校で学校や学年など、みんなで応援する熱気に包まれ終盤に向け、**学校間が互いに意識し合いながらパフォーマンスが高まっていく**学校行事の醍醐味が見られた。

閉会式ではポスターやキャッチフレーズ(右図)の表彰などを行い、生徒は次年度に向け、「もう一度この場所で」と誓っていた。



第1回 富士宮合同体育祭

富士宮 United Sports Festival

2026

6/5(金)

雨天時6月9日(火)
富士宮北高校グラウンド
〒418-0053
富士宮市宮北町230番地
Tel: 0544-27-2533

学校を越えて、一つのチーム

主催：富士宮四校学校間教育連携

会場内での撮影はできません。
以下の二次元コードを撮み取り、
ライブ配信で観覧ください



静岡県立富岳館高等学校
静岡県立富士宮東高等学校
静岡県立富士宮北高等学校
静岡県立富士特別支援学校富士宮分校

新構想高校に向けてのマインドセット

6月6日の静岡新聞で、「初の4校合同体育祭」という記事を掲載いただいた。学校間の教育連携の一環として、取り組んだ内容であるが、富岳館高校の生徒会長の言葉で締めくくられている。全ての生徒が、教員が、同じように思ったかはわからないが、「**予想よりずっと熱気に満ちた大会になった。皆身を乗り出して応援していたし、他校の盛り上がりも新鮮だった。忘れられない1日になった**」これを生徒が言った。私たちは、もっと柔軟により学校を創れば、富士・富士宮の新たな学校を作ることができる。そう思った。

If you can dream it, you can do it!

「だが、しかし」！と絶叫の実況放送。生徒のボルテージが最高潮へ！

この体育祭の前々日の3日には台風6号が県内を通過し、休校にせざるを得ない状況となり、天候やグラウンド環境、生徒の様子など心配だった。しかし、これまでに準備してきた、多くの先生たちの思いが、天にも届いたかのような絶好の体育祭日和になった。写真のように、**虹が龍のように舞う瞬間にも恵まれた。**

生徒たちの参加の様子を何らかの形で多くの人たちにお伝えしたいが、わたしが気づけたことが全てではないので、できるだけ全体に関することを書いておきたい。

開会式において、生徒会が企画した応援合戦を行った。多くの高校の野球応援などで採用される曲「Viva」での応援。現場合わせて行ったが、全ての校生徒が一瞬で心から楽しそうな笑顔となった。全員参加種目は別として参加種目が1種目程度限られることもあるが、参加が応援中心となったこと、適度な自由な時間があり、キッチンカーや各校の紹介学校ブース、のんびり芝生で寛ぐことなど参加の形態が多様であった。他校の生徒を応援する生徒が多く現れた。徐々に生徒のテンションが上がり、最後の学校対抗リレーは、順位に関わらず生徒のボルテージが上がった。実況放送は、「だが、しかし」と連呼し、生徒を鼓舞するものになっていた。

この学校行事は、今後の富士宮の高校再編を見据えながら、各校の教育課程に位置付け、「富士宮」の公立高校に通う生徒にとっての特別活動の目標を達成するために実施した。この成果や、目標の達成度は、教育の世界らしく言えば、すぐには測れないと感じた(総論の評価)し、個人個人の生徒の意見を拾って、各論だけで議論しようとすれば、全ての生徒の意見を網羅できる学校行事はそもそもないので、ナンセンスだとも感じた。

個人的には、初めから終わりまで見ていて、その場で、生徒全体の雰囲気やどンドン変化する醍醐味と、生徒個人個人が学校のために前に乗り出す迫力は、これまでに経験したこととは異なるなど思った。また、**終わった後に、生徒と「やって良かったのか？悪かったのか？」というやりとりをする学校行事は経験したことがなかった。**

多くの場合は、「楽しかった。悔しかった。」とか、「盛り上がった。最高だった。」などが体育祭の感想であったからである。大変真面目なことを言って恐縮だが、本来の学校で行う、学校行事は教育的な活動であるので、この活動はやる意義はどこにあるのかと問うても良いと個人的は思う。

それで言えば、体育的行事であれば集団行動の体得、運動に親しむ、責任感や連帯感の涵養などといった、目標だろうし、**生徒が、体育祭を通じて何か「考えた」ことがあったのなら、成功であったと判断するのが筋かなと思う。**学校行事は生徒のものだなどと言う無責任なことではなく、体育祭の意味の核心は、生徒の成長に資するものがあつたかだと思ふのである。



探究における「課題」と「問題」！体育祭のリフレクションのために

わたしは常々思うことの一つとして、今の教育界をリードする「探究」という学び方。大人は「探究」しているのだろうかということである。この合同体育祭は、本校の先生たちも輝いていた。主管校なので、申し訳ない気持ちでいっぱいだったが、体育科の先生たちの的確な指示とリーダーシップ、生徒会等で半年近く悩み続けた先生たち、当日、生徒と一緒にビバや宮踊りしていた先生たち、その横を一緒に歩いて写真をとっていた先生たち、応援席や生徒種目で一緒に歩んでいた先生たち、グラウンドにいなくとも、それぞれの持ち場で一生懸命仕事してくれていた先生、全ての先生の横顔を見たいと思ったが叶わなかったこと、許していただきたい。そして、それぞれの持ち場で、感じたこと、そして、「課題」。

探究における「課題」は右図のように、行うことで質の高い探究になる(総合教育センター 辻指導主事 2025/11/22)。わたしたち大人もそれぞれの関わり方で参加したので、探究をしながら、リフレクションをしたい。わたしは、この取り組みによって、地域の新構想高校が全ての人にとって自分ごとになってきたかを探究したいと思う。

探究的な学びのエンジン 質の高い探究
やってみてわかるモデル

